

# 日韓国交正常化50年

日本と韓国が国交正常化してから6月に50年を迎える。しかし、歴史的な節目を記念する政府レベルの行事は見送られ、首脳会談開催も見通せない。現状を専門家に聞いた。

安倍晋三首相は20日の党首討論で、衛権行使に関し、一般に海外派兵を内閣の見解継承を表明する一方、国際力行使とみなされる停戦前の機雷掃海

## 首相 政府答弁書との整合

### 岡田氏 「他国で行使しない」

「上は閣議決定した正統な手書では、武力行使の新3要件を満たせば「他国領域での武力行使は、許されないわけではない」としており、首相答弁との整合性にかなりくぎが残った。岡田氏は「米軍の戦いが相手国の領域で行われているときに行使する場合もあるのではないかと指摘。首相の説明を受けて「他国で行使しない」とはつきりと法案に書いてほしい」と追った。

## 首相 米国の戦争に巻き

### 岡田氏 「米国の抑止力に期



安倍首相(右)との党首討論で質問に立つ民主党の岡田代表=20日午後、国会

## 岡田氏 「米兵と一緒にいれ

### 首相 「概念の変更はリス

「言外に、米軍基地と米兵の概念では自衛隊が機敏に活動できない。(概念の変更は)リスクとは関わりがない」と反論した。さらに「安全が確保されている場所での活動は当然だ」と理解を求めた。岡田氏は「きちんとリスクも国民に説明し、必要なことは必要だと説明してほしい」と、首相の対応を批判した。

「首相 戦争の惨禍を二度と繰り返してはならない。村山首相談話、小泉首相談話など政府の談話を全体として受け継いでいく。戦後の日本はボツダム宣言を受諾して始まった。ボツダム宣言は日本の戦争を世界征服のための戦争で侵略だったと判定した。首相もボツダム宣言の部分をつまみづらかに読んでいないので、論評は差し控えたい。」

「この6月に日韓国交50年となるが、関心は極めて低い。現在の日韓関係は国民レベルでも冷めており、史上最悪だと思ふ。とはいえ、過去10年ほどの節目を振り返ると、良好な雰囲気でも迎えたことが少ない。30周年の95年は従軍慰安婦問題や歴史認識でこじれ、40周年の2005年は島根県・竹島の領有権問題で対立が深まっていた。期待が大きければその分だけ失望も大きくなる。静かに迎えたい」

## 浅羽 祐樹・新潟県立大大学院教授

あさば・ゆうき 76年大阪府生まれ。立命館大卒、ソウル大で博士号取得。九州大講師、山口県立大准教授を経て現職。専門は比較政治学、国際関係論。近著に「韓国化する日本、日本化する韓国」(講談社)。



「歴史や領土の要因もあるが、日韓を取り巻く国際環境が大きく変わり、安全保障などの情勢認識で日韓の間で決定的なギャップが生じていることが深刻だ。これが50年目の日韓関係が冷え込んでいる背景にある。環境の変化に応じた関係を考える必要がある」

「具体的には、例えば中国の台頭に対し、日韓を取り巻く国際環境が大きく変わり、安全保障などの情勢認識で日韓の間で決定的なギャップが生じていることが深刻だ。これが50年目の日韓関係が冷え込んでいる背景にある。環境の変化に応じた関係を考える必要がある」

「韓国は従軍慰安婦問題という前提条件を掲げている。朴槿恵政権は対日外交だけでなく対北朝鮮政策や福祉政策など内政面でも原理原則にこだわっている。一つの問題に執着すること、他の関係が止まってしまうこととは不毛だ。韓国内でも硬直した対日外交方針を見直せという指摘が出てはいるが、朴大統領が前提条件を撤回して安倍晋三首相との首脳会談を決定するのは難しいだろう。韓国を説得する手だてを考へたい。日韓という1次元の方程式だけでなく、日中関係や日米関係を動かしながら日韓関係に波及させる連立方程式のようなアプローチだ」

「首脳会談開催など関係正常化に向けた着地点は見いだせるだろうか。日韓が価値観を共有する隣国同士との認識は成り立ちにくくなっている。さらに戦略的利害にもずれが見られる。半世紀の間追求してきた正常化とは違った新たな関係、ニューノーマル(新常态)を考へるべきかもしれない。一つは現在の日中関係のように、国際会議や日中韓の会談の場で首脳会談を続けるやり方だ。単独の首脳会談が難しいのなら次善の策となる」

# 「価値観共有する隣国」の認識 困難に 「米通じ日本へ圧力」の手法は失敗

## 思い入れ捨てた新たな関係考へるべきか 互いに必要との認識 政治家レベルで欠落

「韓国は日本との国交正常化50年よりも安倍晋三首相の訪米での演説や戦後70年談話に注目しているが、安倍首相が4月末の訪米で行った米議会演説に植民地支配の反省、謝罪などのキーワードが盛り込まれなかったのは残念だ。米国の演説ではあるが、東アジアの安定は日米だけで実現できるものではない。日米韓の関係を安定させることが必要なのに韓国への配慮が乏しく、安倍首相は韓国に向きあうつもりがないのでは、とも受け止められている。安倍首相の演説結果と同時に、朴槿恵政権の

## 李 泳采・恵泉女学園大准教授

イ・ヨンチェ 71年韓国全羅南道(チオルナムド)生まれ。慶熙(キョンヒ)大卒業後、98年に来日し慶応大大学院博士課程修了。専門は日韓、日朝関係。著書に「韓流がつたえる現代韓国」(梨の木舎)など。



「歴史や領土の要因もあるが、日韓を取り巻く国際環境が大きく変わり、安全保障などの情勢認識で日韓の間で決定的なギャップが生じていることが深刻だ。これが50年目の日韓関係が冷え込んでいる背景にある。環境の変化に応じた関係を考える必要がある」

「朴槿恵政権は対日外交だけでなく対北朝鮮政策や福祉政策など内政面でも原理原則にこだわっている。一つの問題に執着すること、他の関係が止まってしまうこととは不毛だ。韓国内でも硬直した対日外交方針を見直せという指摘が出てはいるが、朴大統領が前提条件を撤回して安倍晋三首相との首脳会談を決定するのは難しいだろう。韓国を説得する手だてを考へたい。日韓という1次元の方程式だけでなく、日中関係や日米関係を動かしながら日韓関係に波及させる連立方程式のようなアプローチだ」

「首脳会談開催など関係正常化に向けた着地点は見いだせるだろうか。日韓が価値観を共有する隣国同士との認識は成り立ちにくくなっている。さらに戦略的利害にもずれが見られる。半世紀の間追求してきた正常化とは違った新たな関係、ニューノーマル(新常态)を考へるべきかもしれない。一つは現在の日中関係のように、国際会議や日中韓の会談の場で首脳会談を続けるやり方だ。単独の首脳会談が難しいのなら次善の策となる」

「安倍首相も朴大統領も国内の保守層、ナショナリズムを基盤として支持を固めており、双方の立場はかみ合っていない。日韓関係に和解の転機をもたらした98年の日韓パートナーシップ宣言で示された平等な関係構築を再確認し、歴史問題については第三者委員会のような機構を通じ時間をかけて取り組むべきだろう。日韓両国の議員連盟の役割も重要だ」

「朴大統領も歴史問題と安保、経済などは切り分けるとしている」

「朴大統領も歴史問題と安保、経済などは切り分けるとしている」

「朴大統領も歴史問題と安保、経済などは切り分けるとしている」

「朴大統領も歴史問題と安保、経済などは切り分けるとしている」

「朴大統領も歴史問題と安保、経済などは切り分けるとしている」

ラジオでお馴染みの **TEXT GARAGE** ティー・バイ・ディー・ガレージ

**クルマ出張鑑定団** カイトリチュー

パン・トラック・ブルドーザー はたらくクルマも大歓迎!!

あなたは下取り?それとも買取?くらべてみましょう!!

ギョウカギョウカ音明! 実績の一例です!

- 走行23万km 平成4年 ホンダ NSX 買取価格 300万円
- 走行14万km 平成26年 日産 キーラン 買取価格 24.1万円

「コロツケ・神戸」ジャズ&ラ

各100組200名様 特別ご優待!

芸能生活35周年記念

**コロツケ**

コンサート